



試作した茶器セット

平成25年3月5日(火)
あいち産業科学技術総合センター
常滑窯業技術センター 材料開発室
担当 山田、竹内
電話 0569-35-5151
愛知県産業労働部産業科学技術課
管理・調整グループ
担当 西村、山口
内線 3389、3381
ダイヤルイン 052-954-6347

常滑焼の新たな用途を拓く茶器セットを開発しました — 嗜好の多様化に合わせた若者向けのデザインを採用—

常滑焼と言えば「せつ器^{*1}」の一種である「朱泥^{しゅでい}^{*2}を用いた急須」が有名で、そのイメージは伝統的なものとして定着しています。一方で、その用途は限られ、広がりを見せていないのが現状です。

そこで、あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センターは、常滑焼の新たな用途開発を支援するため、若者向けのファッションデザインの要素や、幅広い層に人気のある北欧デザインの要素を採り入れることで、日本茶だけでなく紅茶やハーブティーなどにも違和感なく使用できる茶器を開発しました。

この茶器は従来の常滑焼と同様に「せつ器」の素材を用いているため、企業はこれまでの技術を生かして生産することができます。

1. 背景

茶器は常滑焼を代表する製品であり、企業では伝統的な素材・デザインを重視する傾向があったため、これまで新製品開発はあまり行われてきませんでした。しかし、近年、安価な輸入品やペットボトルのお茶の普及に伴い、茶器製品の販売が低迷を続けており、常滑焼の用途拡大が求められるようになってきました。

このため、常滑窯業技術センターでは常滑焼の新製品開発について研究を行ってきました。なかでも、一般、特に若年層にアピールできる製品を開発することは極めて有意義であると考え、若者向けのデザインを採り入れた、紅茶やハーブティーにも使用できる茶器の開発を行いました。

2. 開発内容

開発した茶器の素材には、常滑地区で製造される2種類の粘土（^{いこみしめつち} 鑄込締土^{*3}、^{きそしめつち} 基礎締土^{*4}）をブレンドしたものを用いました。これらは朱泥にも用いられているも

ので、陶器と磁器の中間的な性質を持つ「せつ器」に分類される、特徴的な素材です。粘土のブレンドを工夫することで、より鮮やかな色を実現しています。

デザイン面では、若者の間で流行しているファッション要素の中から、ミリタリー*⁵、民族柄*⁶、ユーズド加工*⁷を採用しました（写真1）。

また、北欧デザインの要素として、北欧の陶磁器によく見られるシンプルな形状、異型*⁸、かわいい柄をデザインに採り入れました（写真2）。



写真1 ファッション要素
（民族柄）を用いた試作品



写真2 北欧デザイン要素
（シンプル）を用いた試作品

3. 波及効果

開発した素材は、朱泥とほぼ同じ性質を持つため、これまで朱泥のみを扱っていた企業でも容易に生産できます。お茶専用だった急須に比べ、紅茶、ハーブティーなどに用途が広がることで、生産品目、生産量の増加が期待できます。

また、今回の開発をきっかけとして、各企業において新製品開発が促進され、地域全体の活性化に繋がることが期待されます。

4. 今後の予定

常滑窯業技術センターが開催する下記の成果発表会において、本開発成果の発表を行うとともに、試作したポットやカップ、ソーサーなどを展示します。この成果発表会については、平成25年2月8日に「あいち産業科学技術総合センターの平成24年度研究成果を発表します」として記者発表しています。

<平成24年度研究成果発表会>

- ・日時：平成25年3月12日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
- ・場所：あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センター 講堂
(常滑市大曾町4-50)
- ・参加費：無料
- ・申込方法：参加申込書によりFAX、電子メールまたは電話でお申込みください。
申込書は、あいち産業科学技術総合センターのホームページ
(<http://www.aichi-inst.jp/>) からダウンロードできます。

5. 問い合わせ先

あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センター
材料開発室 山田、竹内

電話 0569-35-5151 FAX 0569-34-8196

【用語解説】

*1 せつ器

やきもの一種で、陶器と磁器の中間的な性質を持っています(表1)。漢字では「炆器」と書き、英語では"Stone ware"と呼ばれています。

表1 陶器、磁器、せつ器の特徴

	陶器	磁器	せつ器
透光性	なし	あり	なし
吸水性	あり	なし	なし

一般家庭で使われているやきもの大半は、磁器に分類されます。「せつ器」に分類されるものは、日本では備前焼の一部、世界的には中国の宜興、イギリスのウェッジウッド等、ごく限られたものになります。

※備前焼…岡山県備前市周辺で生産される陶器、せつ器を使ったやきもの。

※宜興…中国江蘇省の市。明の時代から凝った茶器を手作りで生産してきた。

※ウェッジウッド…主に高級食器を生産する世界最大級の陶磁器メーカー。

*2 朱泥

中国の宜興で明の時代から使われ始めたせつ器の一つで、日本では幕末の常滑で使われるようになりました。始めは水田の青みがかかった粘土と丘陵部から採れた鉄分を多く含んだ赤土を混ぜて作っていましたが、現在では薄茶色のせつ器にベンガラと呼ばれる顔料を混ぜて作ったものが多く使われています。1, 100℃～1, 150℃で焼きます。

*3 鑄込締土

常滑地区で製造されている粘土の一種です。朱泥の主成分であり、せつ器の一つです。1, 130℃で焼き締まり、薄茶色になります。

*4 基礎締土

常滑地区で製造されている粘土の一種です。せつ器の一つで、1, 110℃で焼き締まり、象牙色になります。鑄込締土に比べ、ロクロでの成形性に若干難があります。

*5 ミリタリー

ファッション分野では、軍隊で着用される服の忠実なコピーだけでなく、その要素を一部に用いたものまでを含めてミリタリーと呼びます。良く用いられる要素としてはオリーブ色の色彩、カモフラージュ柄、文字柄などがあります。

*6 民族柄

世界各地の先住民族や地域独特の柄のうち、異国情緒のあるものを総称して民族柄と呼びます。チマヨ柄、カウチン柄、フェアアイル柄などがあります。

*7 ユーズド加工

もとは着古したデニムなどにみられる擦り傷や色落ち、破れなどを製造の段階で意図的に施したものです。製品洗いを繰り返したり、薬品や軽石などと一緒に洗ったり、器具で擦ったり傷をつけたりします。

*8 異型

型を用いた食器の成形方法が発達し、回転体ではない自由な形の食器が量産可能となりました。デザインにこだわる北欧の食器メーカーは、四角や三角などの幾何形体、魚や鳥などをモチーフとして、様々な形の食器を多く生産しています。